

統合失調症患者の入院環境，精神症状，ストレス，コーピングがニコチン依存に及ぼす影響についての検討

棟近 孝之¹⁾ 進藤 太郎²⁾ 吉永 一彦³⁾
出石 宗仁⁴⁾ 西村 良二²⁾

- 1) 福岡大学大学院医学研究科病態生化学系専攻臨床研究科学
- 2) 福岡大学大学院社会医学系専攻精神分析学
- 3) 福岡大学大学院社会医学系専攻保健医療福祉システム学
- 4) 福岡大学大学院先端医療科学系専攻臨床研究科学

要旨：精神科病院においても禁煙化の波が押し寄せている中で，統合失調症患者に禁煙を勧める心理教育や指導が求められている．そのため統合失調症患者の喫煙に関して，どのような要因が喫煙に強く影響を及ぼしているかを検討することが必要である．今回我々は精神科病院入院中の統合失調症患者130名におけるニコチン依存とそれに影響を及ぼす諸因子について調査した．重回帰分析の結果，ニコチン依存に影響を及ぼしていたのは精神症状の陽性症状，不快な感情の除去の喫煙動機，習慣的な喫煙動機，刺激を得るための喫煙動機，自己評価のストレス，動揺した感情表出のコーピング，飲食のコーピングであった．対象者の禁煙指導の心理社会的な提言としては，病棟でのレクリエーションや作業療法を通じて，不快な感情を取り除き，自己評価を高め，喫煙以外の選択肢を選べるような病棟活動を行いながら，ほど良い社会的刺激を与える入院治療・療養を行うことが重要と考えられた．

キーワード：統合失調症，喫煙，入院環境，精神症状，ストレス，コーピング